

震災をきっかけに公務員を目指す 役場職員として故郷の復興に貢献

interview



芳賀 諒太 さん

平成27年3月、岩手県立大学宮古短期大学部経営情報学科を卒業。宮古短期大学部では、様々な活動をボランティアで支援するJRCサークルに所属。卒業後は大槌町役場に入庁。

震災をきっかけに公務員を目指す

震災で変わり果てた まちを見て抱いた 役場職員という目標

大槌高校1年生の終わり、春休み中の登校日に東日本大震災が起こりました。学校から吉里吉里地区にある自宅に戻り、制服から着替えた瞬間に大きな揺れが襲いました。海には近い場所だけれど、自宅があるのは高台というイメージ。津波が来るとは思わずにいたのですが、自宅の上の方にある小学校に4つ下の妹が通っていたこともあり、様子をみるために母と小学校へ向かいました。

小学校へ向かう坂道の途中で振り返った瞬間、最初に目に入ったのは流れていく家でした。あふれた海水は目に入らず、何が起こっているのかよくわかりませんでした。自

宅は全壊しましたが、家族は全員無事でした。

小学校から見下ろしたまちは、一瞬にして大きく様変わりしていました。私はそれまで調理師を目指していたのですが、変わり果てた故郷の姿を見て、このまちに残り、復興に尽力しなければならぬと考えるようになりました。

とはいえ、最初から役場職員を目指していたわけではありません。教師をしていた父と話をしていくなかで、まちづくりの企画・立案をしていきたいなら大槌町役場に入るべきだろうと。震災後、まちのために必死で働く役場職員の姿もその後押しになりました。「公務員になりたい」のではなく、「大槌町役場で働きたい」。それが私の目標になりました。

故郷の復興の状況を肌で感じて



いられるよう自宅から通えること、社会に出てから役立つであろう経済を学べることを条件に進学先を探したところ、候補に挙がってきたのが岩手県立大学宮古短期大学部でした。調べてみると、観光学や現代日本経済論など興味のある分野が学べ、また公務員採用実績もあることがわかりました。

公務員を目指すのであれば専門学校という道もあつたのですが、「試験に通るためだけの勉強をするのではなく、役場職員になった後に役立つ勉強をすべき」と。私自身も、試験対策の勉強は自分で進めながら、大学では地元や日本の経済などについて研究したいと思いついた。また滝沢キャンパスの学生と合同の震災学習プログラムがあることも興味をひかれました。

多角的な視点、 多様な考え方を学ぶ 機会が得られた学生時代

入学後は、観光学を専攻するゼミに所属し、その地にもともとある資源を生かした観光振興の方法などについて学びました。授業やゼミを通し、自分の故郷である大槌町にどんな自然・文化的資源があり、それらをどのような視点で町内外、県内外にPRしていけばいいのかを

宮古短期大学部時代の印象に残っていることといえば、1年生の時に参加した、大槌町役場総合政策課のインターシップがあります。総合政策課は復興に関するマスタープランを作成したり、まちの広報誌を制作したりしている課ですが、あるとき、仮設団地で暮らす住民の皆さんのもとに大槌町長、副町長、復興局長が出向き、その地域の復興計画について議論するという取材に同行させていただいたことがありました。被災した方の生の声が聞けたこと、また役場側の視点から

見ることもでき、双方の見方や考え方を知ることができる貴重な経験となりました。

このインターシップの後、滝沢キャンパスの皆さんと一緒に、いわて創造教育プログラム（現 地域創造教育プログラム）の一環として大槌コース、宮古・田老コースを回ったのですが、地域住民や行政とはまた違う学生の視点で被災地を見ることもできました。このように、多角的な視点からの見方や考え方が学べる機会を与えられるのも、大学で学べたからこそのことだと思います。

プログラムに参加した学生の中には、被災地出身ではない学生や、直接被害のなかった学生も多くいま



自宅近くの海岸を前に、震災当時のことを振り返る芳賀さん





ひよこりひょうたん島のモデルとなった蓬莱島の前で

私は昨年ダイバーライセンスを取り、その後活動に参加。海に潜り、増え過ぎたウニを除去・移動したり、スポアバッグ（種子昆布が入った網）を設置したり、海藻の生育状況をモニタリングしたりする活動を手伝っています。この活動は基本的に平日に行われているため、参加する際には有給休暇を利用していただきます。「役場職員」としての参加ではなく、あくまで個人的な参加です。

短大時代のJRCをきっかけに、地域の活動にはできるだけ参加しようと思つてきました。個人的な興味や私自身のスキルアップのためということはもちろんありますが、地域の現状を知りたい、どんな人が地域に暮らしているのかを知りたいという役場職員としての意識もそこにはあるのかもしれない。同時に「役場でこんな人間も働いていすよ」と自分の顔を知ってほしいという思いもあります。アクティブに動けるのは20代30代のうちだと思うので、今はさまざまなことに挑戦し、いろいろな世界を見ておきたいと思つています。

本当の復興はこれから。故郷に寄り添い、サポートし続けていきたい

震災から10年を経て、ハード面の復興はだいぶ進んだと感じています。しかし、まちを見渡してみると空き地だらけです。まちを離れる人が多いんです。大槌は高齢化率が約38%とだいぶ高いのですが、これは高齢の人が増えたというより、若い世代がまちを離れたことによる数字です。

私が考える本当の復興とは、一度大槌を離れた人が再びまちに戻



復興が進む大槌町だが空き地も目立つ

した。震災当時の状況や思いを言葉にするとき、実は今でも声が震えてしまうことがあり、話をする相手によつては気を張ることもあるのですが、宿泊したホテルでは同年代の学生に自分の正直な気持ちを書直に話すことができました。震災

まちを知りたい、人を知りたい。地域活動にも積極的に参加

卒業後は、当初の念願がなくなって大槌町役場に入庁しました。入庁後6年間長寿課（現 健康福祉課）に勤務していました（現在は産業

当時の気持ちを共有できたことも、私にとっては大きな出来事でした。

宮古短期大学部時代は、「JRC（学生赤十字奉仕団）」に所属し活動もしていました。JRCは、行政や地域などからの依頼を受け、さまざまな活動をボランティアでサポートする学内サークルです。復興に関わるイベントの手伝いや献血のボランティア、時には地区のお祭りの神輿の担ぎ手まで、本当にいろいろなことを経験させてもらいました。JRCに参加しようと思つたきっかけは、多くの人と接する機会を持ちたかつたからです。特に、それまで私は多世代の方々と話す機会があまりなく、いろいろな世代の方と交流してみたいと思つたからでした。この活動を通してそのような機会に恵まれ、だいぶコミュニケーション力が磨かれたと思つています。

振興課に勤務）。仕事の内容は、介護に関する相談や保険の給付管理などです。県や国の省庁、機関などとやりとりすることも多く、取り扱う金額も多いので、大きな責任も感じています。窓口に来られる方は介護を必要とする方のご家族が多く、年代もさまざま。JRCで培ったコミュニケーション力が、今生きていると感じています。

長寿課では、高齢者だけの世帯や一人暮らしの方の社会参加を促し、何かあつたときにコミュニティ全体で気づくことができるような社会づくり・地域づくりも進めています。これもまた、まちの復興へとつながる重要な仕事です。2021



芳賀さんも参加する「三陸ボランティアダイバーズ」。津波によって荒れた海の再生や、豊かな漁場づくりに取り組む

年には、地域づくりに特化した協働地域づくり推進課も立ち上がり、最近ではそちらの活動にもおもしろさを感じてきています。

学生時代に引き続き、社会人になつてからも地域の活動には積極的に参加しています。地元の消防団に入つたり、「三陸ボランティアダイバーズ」というNPO団体の手伝いもしています。三陸ボランティアダイバーズは、三陸沿岸地域の復興や藻場再生に取り組むダイバーネットワークで、震災により湾内に流入した瓦礫の撤去から始まり、近年では、ウニが増え過ぎて海藻などが食べ尽くされてしまう「磯焼け」対策などにも取り組んでいます。

り、同時に新たな住人も増え、まちに賑わいが戻る。大切なのは、「まちに人をどう呼び込むか」。復興はこれだから本番だと思つています。

以前、官民連携のイベントの運営にも携わらせてもらったのですが、そのとき感じたのが役場と運営側をつなぐ役割の重要性でした。立場が違つたり、意見が違つたり見方が違つたりすることがあります。両方の視点を持ち、双方の感情を汲み取り調整できる人間がいることもスムーズにことが進みます。将来、そんな仲介的な存在に自分

がなれたらいいなと感じています。そのためにも、役場職員としてだけでなく、「一町民」としての視点や感覚を忘れてはいけないと思います。地域活動に参加するのも、そんな思いがあつたことなのかもしれない。

これからいろいろな部署を経験していくことになると思います。多くの経験を積みながら、今は、役場の中にいるからこそできることを通して、まちのために精一杯働きたいと思つています。そしてもし将来、地元に対して何が一番いいかを考えたときに、役場職員以外で自分に

できることがあるのであれば、そちらを選択してもいいのかなとも感じています。

大学での学びや学生時代の経験を生かすのは、これからが本番。町民に寄り添い、地域に寄り添い、故郷が賑わいを取り戻していくのをこの地で見つめ続けていきたいと考えています。